文化財だより ふるさと再発見

① 高山村に郡役所を！

明治十一年、県は郡制施行のため、郡役所設置の検討を進め、土岐郡では翌十二年二月、多治見村に設置が決定されました。

郡役所を高山村にという運動は、その三、四カ月以前から、村の有力者たちの間で進められていました。郡の西の端にある多治見村よりも、中央に位置する高山村の方が、隣接する村々の便宜のためにも適当であるとして、多治見村・笠原村・妻木村・下石村の四カ村以外で、土岐郡中部東部の残り二十三カ村にも働きかけました。高山村では、全村から委任を受けて、郡役所設置運動を進めました。

十二月、村の有力者ら五人は、県や中央の省庁に直接働きかけることにしました。

郡役所が決まった多治見村では、庁舎新築費の寄付を願い出て熱意を示し、仮庁舎も養正学校と決定され、状況は深刻なものでした。前年十二月末以来の中央での工作は、無駄になるかと思われました。

しかし、今度は東濃東部二十三の村々から二、三人ずつ組んで、くり返しねばり強く県へ嘆願した結果、郡役所移転は、十二年十一月に認められ、翌年一月、正式に高山村に決定されました。

この運動は、高山村の大変な努力、中央での運動、そして各村々の協力によって、達成できました。

移転された郡役所

教育夢発信

濃南中学校の取り組み
「最後までやり遂げる力を育てる」
～手作りの陶芸体験～

濃南中学校では、総合的な学習の時間に、地域講師の方の支援をいただきながら、「中馬の時間」と呼ぶ地域学習を進めています。

昨年十二月、自分たちで造った穴窯に、自分たちの作品を入れ、自分たちで割った薪を入れて初窯をスタートさせました。「中馬の時間」は、生徒が自分の考えを大切にして活動を進めることをモットーにしています。

夜通し、薪をくべ続け、窯の温度を千二百度まで上げることに成功しました。煙突から勢いよく出る炎は、例えようもなく美しく、夜空の星に向かっていくようでした。窯の中では、作品がきらきらと輝き、燃えていました。

二日たって窯出しをしました。「窯変」というそうですが、一つ一つの作品が、実に味わい深く焼けていました。釉薬は山砂の中から取り出し、鉄釉も裏山の沢から採取して、作品の絵付けに利用しました。鉄分が固まった「鬼板」をハンマーで砕き、それをゴリゴリすって粉にし、水で溶いて筆で絵を付けました。

「陶芸」については、見聞きして知っているつもりでしたが、こんなに奥が深く、またやりがいのあるものだとは生徒は思ってもみませんでした。

もうすぐ窯が完成

今は、何でも買って間に合わせることが普通になっているのですが、すべての材料を身近なところに求めてやったことが、新鮮な発見につながりました。地域講師の方の助けを受けながら、一つ一つの段取りを丁寧にふんで、陶芸づくりの最初から最後までをやり遂げ、満足感を味わうことができました。

このほかにも「中馬馬子唄コース」「打囃子コース」があります。いずれも、豊かな体験を重視しています。長い年月を経て育まれてきた地域の財産に学びつつ、歴史・文化に目を向けながら、最初から最後までやり遂げる力を育てることを大切にしています。